

# 伝統的文化の復活と継承

—『おいやらもん』で市民と交流—

新湊漁協青年部  
部員 竹沢 芳孝

## 1. 地域の概況

富山県は、本州中部の日本海側に位置する。私たちの住む新湊市は、富山県海岸域のほぼ中央部に位置する。

万葉の時代に、越中国主として赴任した大伴家持の歌に読み込まれるほど、すでに漁業が盛んな地域であった。また、江戸時代に、加賀藩主からお墨付きを下付され、藩の保護を受けた特別な漁業集団が存在した。そのお墨付きと一緒に賜わった「恵比須絵像」を約300年にわたり信仰し、守ってきた地域でもある。

河川の多い富山県には、明治時代以降数多くの水力発電所が建設された。この豊富な電力を背景にし、企業誘致が盛んに行われ、日本海側で有数の工業県になっている。新湊市には、特定重要港湾である富山新港があり、電力消費型の工場や北洋材関連企業などが数多く立地している。このため、市民の約30%が、製造業に従事している。

この都市の中で、漁業者は集中して生活しておらず、一般市民と軒を並べて住居を構えて、日々の生活を過ごしている。つまり、いわゆる漁村というものを形成していない地域である。

## 2. 漁業の概要

私が所属している新湊漁協は、正組合員が374名、漁業経営体数は79経営体の中規模の組織である。

海岸線は、東西に7～8kmと短い。海脚と海底谷が複雑に入り組んだ海底地形は、好漁場の要因となっている。定置網をはじめとし、小型底曳網、カゴ網、刺網等の沿岸漁業を主力とし、沖合漁業のイカ釣も営まれている。県の他地区と比べて、漁業種類が多いことから、魚種が最も豊富な地域である。

平成9年度の漁獲量は6,054トンで、漁獲金額は28億4千万円である。

## 3. 研究グループの組織と運営

新湊漁協青年部は平成7年9月に設立され、現在部員は35名である。

運営費は、漁協と新湊市の助成でまかなっている。部長以下8名の役員が中心なり、ヒラメ・マダイの中間育成をはじめ、各種団体グループと積極的に連携して活動をしている。

## 4. 活動課題選定の動機

例年2月11日に行われる漁業者の祭である「起舟祭」に関して、漁協役員と青年部執行部が雑談の中で「いつも神主に祈祷してもらい、一杯飲むだけでは寂しい」等の発言があった。漁協役

員の一人から「昔はどんな風にやっていたのか？ 青年部でいろいろ調べてみてくれないか」という提案があり、「それではいろいろ調べてみます」と返事をした。古来より漁業の町として栄えた新湊市に、漁業後継者として住みながら、起舟祭では酒を飲み、「めでた（新湊に伝わる謡曲で「高麗の恵比須」と言われている）」を唄うだけの今のスタイルでは、なんとも味気のない、そして物足りない気持ちを感じていたからである。そこで我々青年部が一念発起して、過去の歴史をひもとくことになった。

## 5. 実践活動状況及び成果

我々青年部は平成9年2月に野村勝実氏（自称 民俗研究家、残念ながら平成10年1月に48歳の若さで他界）に相談に行った。野村氏によると、「新湊市中央文化会館の資料室に明治時代の起舟祭の資料やわら縄で作った舟がある。また、漁師の作業唄で〈おいやらもん〉があると聞き、私も数年調べているが、どうしても歌詞と節回しの一部しか分からない。漁師の中で誰か知っている人はいないだろうか？」ということだった。

そこで我々は新湊市中央文化会館資料室で調べたところ、昭和20年代にわら縄で作られ、宝船の形をした「船霊」が2つあった。また、明治から大正にかけての各船主の家で行われる起舟祭で、若い衆が船主の持ち船の数だけ「船霊」を作って柱と柱の梁に吊るしていたことや、「船霊」へのお供え物の並べ方等の解る資料が残っていた。当時の起舟祭では宴たけなわになってくると、「船霊」を吊るした梁にロープを結び、作業唄を唄いながら船を降ろす仕草をしたということだった。この時唄った作業唄が「おいやらもん」である。そしてこのような起舟祭は昭和30年代まで数軒の船主の家で行われていたらしい。

古老である指崎伊三郎さんや堀岡地区の漁業者の方々に起舟祭について尋ねてみると、しきたりは資料通りという事だった。しかし、「おいやらもん」に関しては、誰も断片的にしか思い出せないということだった。当時「おいやらもん」の音頭を取っていた人は、優に100歳を過ぎているはずだから、それは無理もない話である。また、「おいやらもん」の語源についても不明なところが多く、「大木遣唄（オオキヤリ）」が訛を伴って変化したものではないかという説がある程度である。

半ば諦めていると、なんと当青年部の松本隆司君の「それなら家のおじいちゃんが昭和30年代に録音したテープがある」との言葉があった。さっそく聞くと素晴らしい迫力ある「おいやらもん」が聞こえ、今まで分からなかった微妙な節回しや歌詞を完全に復活させることができた。

我々は7月20日の海の日に、この伝統行事を再現することを決め、練習することにした。漁業種類ごとに労働時間帯の異なる部員で構成されているため、「おいやらもん」を全員が揃って練習することは無理であった。そこで、「おいやらもん」を録音したカセットを、部員全員に渡し、家や車の中で練習できるようにした。全員が揃った練習を、なんとか3回行うことができた。

唄が6分程度と長いので、音頭は野村幹男さん（当時青年部理事）と民俗研究家の野村勝実さんが交代して取ることとなった。他の青年部部員は、いけす網と小船を利用して当時の網起しを再現することとなった。

次に、「船霊」の編み方を写真を見ながら研究した。そして、わら縄の代わりにポリエチレンのロープを使い、連日5～6人の部員で試行錯誤をしながら、なんとか一週間で完成させた。

平成9年の海の日に、漁協青年部・婦人部、地元小学生等約300名で海岸清掃を行い、その後漁

協市場内でバーベキューをした。そして、バーベキューの最中に青年部による「おいやらもん」を初披露した。このことは、「50年ぶりの起舟祭再現」の見出しで地元紙に大きく取り上げられた。さらに、NHKで「漁師の唄がよみがえる」と題して全国にテレビ放送された。しかし、テレビ局や新聞社の取材で緊張したのか、完全に習得したはずの「おいやらもん」を少し間違えてしまい、数か月も努力したのに非常に悔しい思いをした。

さらに、平成10年は、昨年の取り組みを知った新湊めでた保存会（50名）と観光ボランティア団体である新湊女性の会（50名）が、新たに参加協力を申し込んできた。我々の取り組みが地域に広がりを持ちはじめたことに、自信が湧いてくる思いであった。昨年以上の規模で披露することとなったので、場所も昨年度より広い内川公園に変更した。今年度は、一般市民から大変な好評を博し、青年部一同大変うれしく思った。

本来の起舟祭とは異なる形の復活ではあるが、時代が変化していることから、致し方のないものであると思う。形が変わろうと、これまで培われてきた伝統文化の精神を受け継ぎ、これからも絶やすことなく、次代に伝えていきたいと考えている。

## 6. 波及効果

漁村のイメージとは程遠い新湊市で、都市化された日常生活をしている我々青年部にとって伝統的文化を知り、継承する事によって、心の潤いや安らぎを初めて知る事が出来た。

初代部長は、青年部員に対し「豊かな感性を持ち、豊富な知識を持って」とよく言っておられた。しかし、そんなものは青年部にとって必要のない事だと思っていた私にとって、この言葉の意味がこれらの取り組みを通じてようやく分かった気がする。青年部活動の実践で、大事なことは組織力や金銭的なものでなく、伝統的文化を知ることによって、一人一人の心の繋がり、優しさ、いたわりを持つことである。このような実践活動は、他では味わうことのできない大変貴重な体験であった。

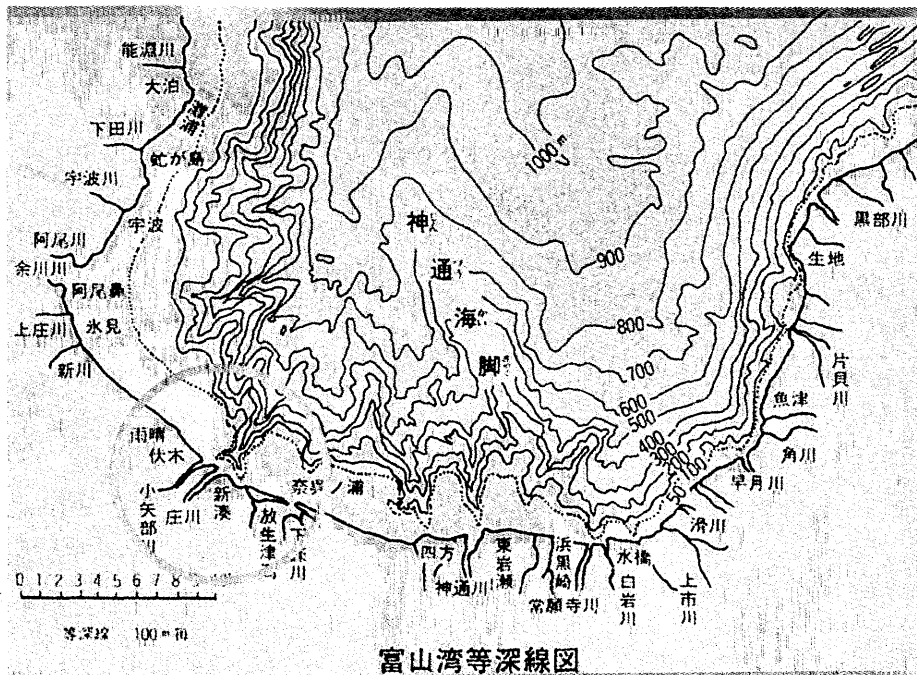
## 7. 今後の課題

私達は、何といたっても漁業を活力ある産業にすることが究極の目的としている。今後は知識を深めながら、さらに楽しみながら青年部全員が参加できるイベントや事業等を企画したいと思っている。

そして、将来、富山県や日本の漁業の中心となる人物を我々青年部OBから輩出することを目標に頑張りたい。



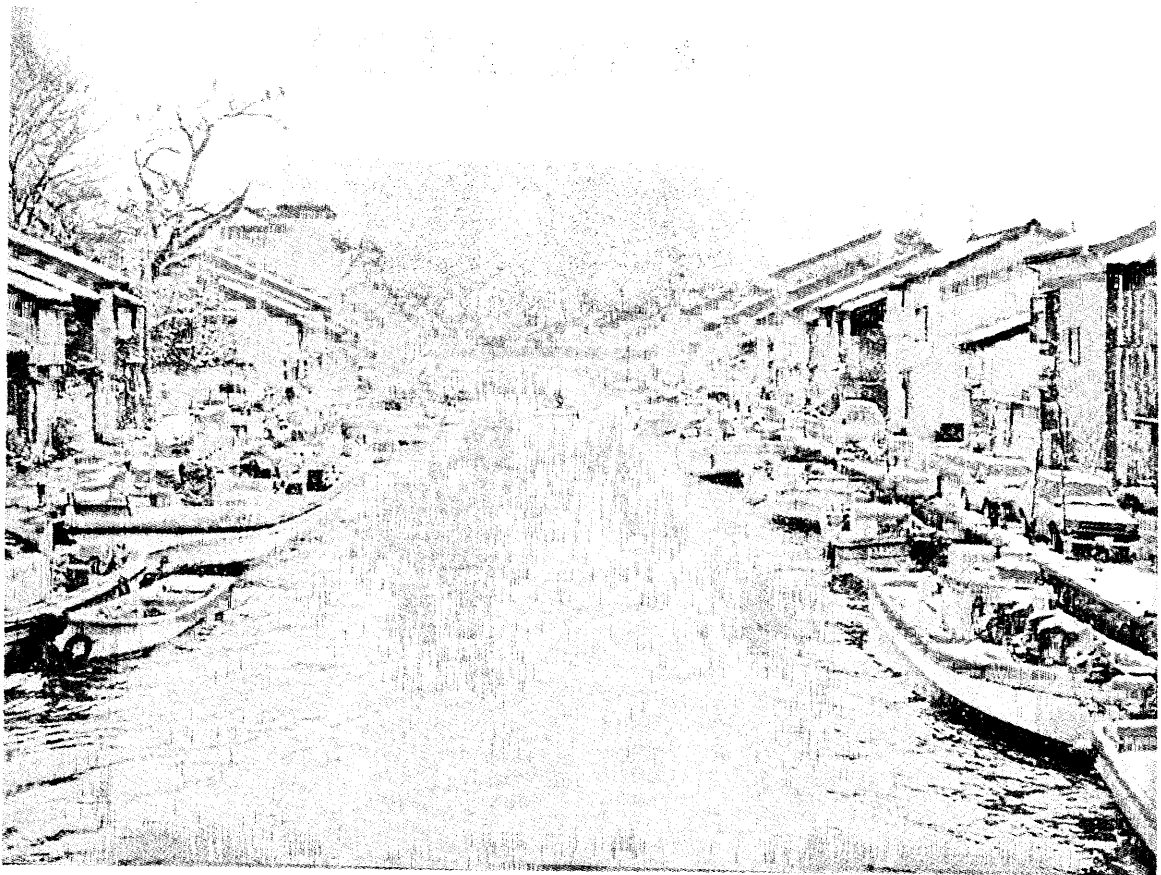
【新湊漁協位置図】



【富山湾等深図】



【新湊新港全景】

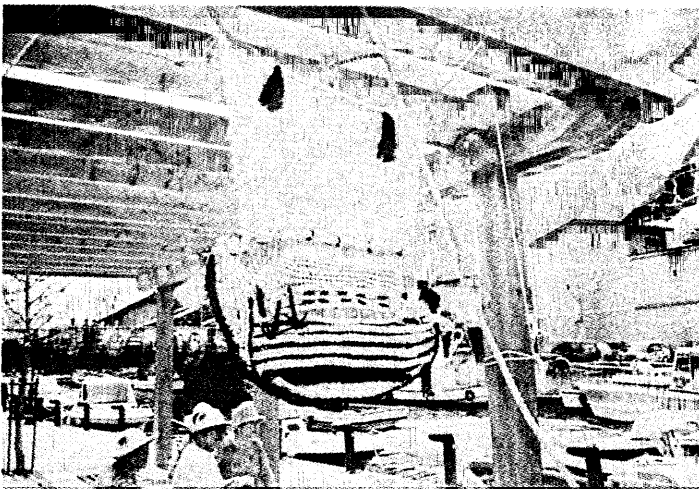


【内川風情】



【船霊の製作】

【小学生と海岸清掃】



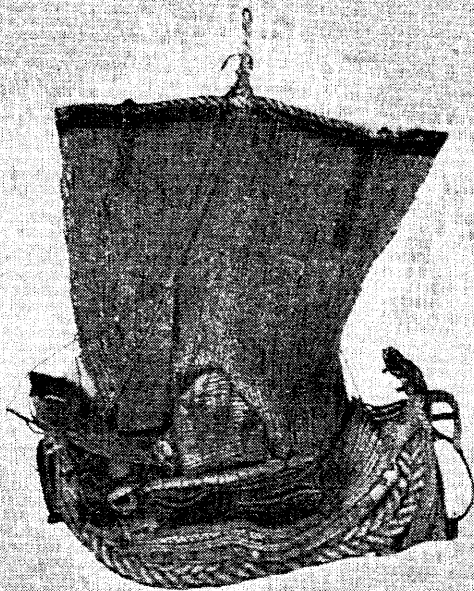
【完成した船霊】

【おいやらもん】



# 海の日は 新湊漁業協同組合

## 「船霊」40年ぶりに復活



新湊市文化財の船霊（ふなだま）

### 🎐 あいさつ 🎐

向暑の候、子供達は野に山に、そして海へと心はずませる季節となりました。

7月20日は昨年から制定された海の日であります。昨年はわらび座講演で皆様にご協力をいただきましたが、今年には新湊漁協青年部が海岸清掃と当地方古来から伝わる起舟祭の一部を再現し、伝統行事の継承を図ることを計画いたしました。

この行事の象徴であります船霊（ふなだま）を我々部員によって戦後初めて作成し、更に作業歌である「おいやらもん」を甦らせ公開いたします。

尚、放生津・新湊両小学生によるソーラン節も同時に発表されます。

どうか皆さんご期待下さい。

新湊漁協青年部  
部長 尾山 正男

### 🎐 イベント 🎐

- |     |                    |
|-----|--------------------|
| 日 時 | 7月20日「海の日」         |
| 場 所 | 新湊漁業協同組合 市場内       |
| 日 程 | AM 9:00～ 海岸清掃      |
|     | AM 11:00～ バーベキュー大会 |
|     | おいやらもん             |
|     | ソーラン節（小学生）         |



# 「おいやらもん」



- 音頭 ホーラーエー みかんの切り口<sup>くち</sup>や ヤーアエ  
 囃し ヤットコセエーヨイヤナー
- 音頭 みかんの切り口<sup>くち</sup>や 天子の御紋 ヨーオオイトナー  
 囃し ホーランサー エーイヤ アラアラドッコイ ヨーイトコ ヨーイトコナー
- 音頭 ホーラーエー 碓<sup>いかり</sup>の玉鋼<sup>たまかじ</sup>や ヤーアエー  
 囃し ヤットコセエーヨイヤナー
- 音頭 碓<sup>いかり</sup>の玉鋼<sup>たまかじ</sup>や 十五夜のお月 ヨーオオイトナー  
 囃し ホーランサー エーイヤ アラアラドッコイ ヨーイトコ ヨーイトコナー
- 音頭 ホーラーエー ちよいと借ります ヤーアエー  
 囃し ヤットコセエーヨイヤナー
- 音頭 ちよいと借ります はや戻しましょ ヨーオオイトナー  
 囃し ホーランサー エーイヤ アラアラドッコイ ヨーイトコ ヨーイトコナー
- 音頭 ホーラーエー この鯰取らなきゃ ヤーアエー  
 囃し ホラッ ヤットコセエーヨイヤナー
- 音頭 この鯰取らなきゃ 竈<sup>かまど</sup>さわる ヨーオオイトナー  
 囃し ホーランサー エーイヤ アラアラドッコイ ヨーイトコ ヨーイトコナー
- 音頭 ホーラーエー 重いも道理じゃ ヤーアエー  
 囃し ヤットコセエーヨイヤナー
- 音頭 重いも道理じゃ 千両万両の金箱<sup>かまど</sup>じゃもの ヨーオオイトナー  
 囃し ホーランサー エーイヤ アラアラドッコイ ヨーイトコ ヨーイトコナー

起舟祭とは、旧暦正月明けの仕事始めの際、豊漁や船の航海安全を祈願して行なわれる伝統行事。漁師や船乗りらが網元や船主の持ち船の数だけワラで船型（船霊）を作り、祭りの宴会の最中に大梁につるした船霊を「おいやらもん」と呼ばれる作業歌とともにロープで引っ張るしぐさをしていた。

戦後、漁船の機械化とともに、重い網を引く時に歌う作業歌「おいやらもん」もしだいに知られなくなった。

主催 新湊漁協青年部・新湊漁協婦人部  
 協力 新湊小学校・放生津小学校・新湊市